

全国大会でも飛躍を

有明高校卓球部 谷崎煌琉さん

3月6日、有明高等学校(井手秀孝校長)卓球部2年生(当時)の谷崎煌琉さんが佐藤町長を表敬訪問し、3月21日～24日にかけて山形県で開催される「第51回全国高等学校選抜卓球大会」への出場を報告しました。谷崎さんは第2シードで出場した予選の「熊本県高等卓球新人大会」を全試合1セットも落とすことなくストレートで勝ち上がり優勝。全国大会へ向け谷崎さんは「全国大会を目標に練習に取り組んできたので出場権を獲得できてうれしい。初出場の全国大会でも、普段通りの自分のプレーを貫き、一戦でも多く勝てるように頑張ります」と意気込みを語りました。



▲谷崎煌琉さん(左から2番目)



▲送辞を述べる後藤煌稀さん

▲卒業生による「3月9日」の合唱

感謝胸に、母校を巣立ち

中学校で卒業式

3月9日、南関中学校(平井一郎校長)で「令和5年度第38回卒業証書授与式」が行われ、64人が思い出の詰まった学び舎を巣立ちました。卒業証書を一人ひとりに手渡した平井校長は「将来を生き抜く力を養うために努力の大切さや努力した喜びを知り、夢実現を目指して皆さんが成長していくことを願っています」と激励しました。卒業生を代表して後藤煌稀さんは「この3年間ともに過ごした先生や仲間とたくさんのことを乗り越え、支え合い、いろいろな経験をしてきた。これからも支えてくれた人たちへの感謝を忘れず全力で走りぬいていきます」と感謝と決意の言葉を述べました。卒業生は、苦楽を共にした仲間と名残惜しそうに談笑しながら、誇らしげな表情で新たな道へと踏み出していきました。

お米でみんなを笑顔に

一小 お米の販売体験

2月28日、南関第一小学校(唐津智彦校長)の5年生(当時)19人が、関町のいきいき村で自分たちが育てたお米の販売を行いました。同小では総合的な学習の一環で種まきから田植え、稲刈り、脱穀など米作りを学んでおり、この日は、自分たちが育てたお米を味わってもらおうと、原農場の原さんの協力により初めての販売体験に挑戦。テーブルには児童たちが手作りでパッケージをデザインした2kg入りの袋が並べられ、児童たちは誘導や接客、会計など役割を分担しながら来店者にお米をPRしました。児童たちの元気な声に次々と買い物客が訪れ、販売から40分ほどで35袋を完売しました。



▶笑顔でお米の販売に挑戦する児童



▲九州電力の泉センター長(左)、佐藤町長(右)

迅速な地域課題の解決を目指す

南関町×九州電力 包括連携協定

3月19日、町は災害に強いまちづくりやカーボンニュートラル実現を目指し、(株)九州電力と包括連携協定を結びました。この協定により、互いに緊密な相互連携を図り、災害など課題が発生した際にはより迅速かつ適切に対応することを目指します。主な協定事項としては、カーボンニュートラルに向けた省エネ・電化の推進や地域の見守り強化による安全安心な暮らしの実現、町情報発信の充実、避難所施設の機能維持や設備・備蓄品等の配備による災害に強いまちづくりの実現などがあげられます。同社熊本西営業センター長の泉裕幸さんは「町と連携を図りながら自社のノウハウを活用して地域の発展や課題解決に貢献したい」と話しました。

小学生の安全を願って

ランドセルカバー寄贈

2月29日、玉名地区交通安全協会(作本幸男会長)から谷口教育長へ新入学児童に対するランドセルカバーが寄贈されました。玉名地区交通安全協会は、地域の子どもの安全を守る活動の一環として、玉名地区にある学校へ平成元年から35年にわたりランドセルカバーを寄贈しています。今年も、横断歩道を渡るくまモンがデザインされたランドセルカバー計700枚が玉名地区の小学校へ寄贈されました。寄贈を受けた谷口教育長は「毎年寄贈していただき大変ありがたい。ランドセルカバーが登下校中の子どもだけでなく車を運転する周りの大人への注意喚起にもつながれば」と話しました。



▲同協会の作本幸男会長(左)、谷口教育長(右)



▶佐藤町長(右)に教育図書を手渡す(株)モリショウグループの森山代表(左)

教育図書を寄贈

(株)モリショウグループ

下坂下の南関バンブーフロンティア(株)を運営する(株)モリショウグループ(本社:日田市)は2月14日、町に教育図書を寄贈しました。寄贈したのは「わたしたちと森林」(全5巻)7セットで、町内の小中学校、図書館、移動図書館に設置され、環境学習などに活用されます。贈呈式には、同グループの森山和浩代表、南関バンブーフロンティア(株)の長谷部満之助社長らが出席。森山代表は、「子どもたちが森林資源を後世に残すことに興味を持ってくれれば」と述べ、佐藤町長は「大変ありがたい」と謝意を表しました。

小学生が義援金呼びかける

二小 能登半島地震義援金

南関第二小学校(古川浩美校長)の児童が能登半島地震の被災者を支援しようと募金活動を行い、2月19日に集めた義援金42,872円を日本赤十字社熊本県南関町分区支部の南関町社会福祉協議会に手渡しました。二小児童会の計画委員会を中心に義援金を募り、2週間にわたり校内で募金活動を実施。児童や職員のほか、保護者や地域の人などからの協力で義援金を集めました。二小の村岡教頭は、「児童が自ら被災地を思い、冬休みが明けすぐに活動を始め、保護者や地域の方々にも学習発表会を利用して賛同を呼びかけてくれました。感謝の思いと同時に一刻も早い復興を願っています」と話しました。義援金は、日本赤十字社を通じて能登半島地震の被災地に届けられます。



▲手書きのチラシで支援を呼びかける児童計画委員の皆さん



▲声をかけながら丁寧に幼虫を放流する児童

元気な姿で5月にまた会おう

二小 ホタルの幼虫放流

3月7日、南関第二小学校(古川浩美校長)の4年生(当時)16人が久重のホタルの里公園で、自分たちで校内で育てたホタルの幼虫を放流しました。同校では5年前から毎年、環境学習の一環としてエコアくまもとや鹿島環境エンジニアリングの協力のもと、地域で減少しているホタルの飼育および放流に取り組んでいます。放流したのはゲンジボタルの幼虫およそ25匹とエサとなるカワニナおよそ100匹で、同校の4年生が9月頃から教室の廊下で大事に育ててきました。児童は、「元気いっぱい育ててね」と声を掛けながら、幼虫が入った容器を傾けて水路に放流しました。